

めぐみ

2025年
2月号

学校法人 聖公会北関東学園

認定こども園

初雁幼稚園

〒350-0057 川越市大手町 8-5

Tel 222-5385 Fax 228-5010

仕事と遊びも全力がモットー！ 年長すみれ組担当 星 美由紀



私は20年以上楽しんでいる趣味があります。それは、専門学校のとこに行った冬キャンプで経験したスノーボードです。教えてあげるといった先輩はどこかへ。他の人たちはスキーヤーばかり…。2人の初心者の方たちと、気合いと根性で3日間。リフトもあたふたしながらなんとか滑れるようになりました。楽しかった私はバイト代をためては友だちを誘い、学生時代を格安ツアーでスノーボードを楽しむのでした。

卒業してからはみんな忙しくなり、日程があわず、お断りの数々…そんな中、職場の後輩が「スノボします。一緒に行きましょう」と新潟、北海道、長野、群馬と雪のあるところを求めて遊びに行くのでした。仕事と遊びも全力をモットーに生きていく私を親や妹が心配するなか、なんやかんやで同じ趣味を持つ父ちゃんとお会うことになりました。

さて、20 数年続く趣味のスノーボードですが、2年ほど行けず休みました。子どもがお腹にいるときです。さすがにいけないね（笑）でも、産まれたら子どもが歩く前でもお構いなしで、そりにおんぶひもをもって雪山ヘレッツゴー！1歳の時の娘は父ちゃんにおんぶされ、「シューシュー」と言いながら喜び、滑り終わる頃には寝落ちしていました。2歳の時の息子は「寒い」と言っているのに連れてこられて、鼻水垂らし泣きながら雪玉を作って遊んでいた…といい思い出が何個もできました。

趣味を勝手に押し付けた親2人ですが、ここ数年で息子も滑れるようになり、4人で並んでリフトに乗ってスノーボードを楽しめるようになりました。褒めて伸びるタイプの息子に、「いいね！」ばかりを伝えていたら急激に上達。今年はスピード狂になってしまいました。ついていくのに必死な私は、「あっという間に抜かされてしまったな」と思うのでした。

「今シーズンあと何回いけるか」「あと、みんなで何年行けるのか」を嘯みしめながら…趣味の年数を増やしていきたいな、と「めぐみ」を書きながら考えています。星家のスノーボードは日帰りメイン。朝早くからリフト最終まで。翌日は体がバキバキになるのですが、すみれ組ではやりの尻尾とりは手加減なしです！親になっても仕事、遊びは全力をモットーに 2025 年も過ごして行きたいと思います。

今月の保育目標と予定

☆保育目標☆

今月のテーマ

「響き合う」

今月のねがい

- 互いの存在を認め合い、信頼し合って生活を進めていこうとする
- 友だちと遊びを分かち合い、楽しさを共感する
- 寒さの中でも、神様が守られている命を知る

学年別のねがい

- (1歳) 思いを出し、伝わる喜びを感じる
- (2・満3歳) 楽しさを共感する
- (年少組) 友だちと心を通わせ、のびのびと過ごす
- (年中組) 自分たちで生活を進めていこうとする
- (年長組) お互いの力を信じ、自信を持って生活する

ひとこと

梅の木やサクランボの木に小さな蕾が並んでいます。寒さの中でも神様によって守られている命があることを思います。春を待つ木々に見守られながら、子どもたちは元気にドッジボールやしっぽ取りをして遊んでいます。そこには学年に関係なく遊ぶ姿が見られます。年齢も好きなことも性格もひとりひとり違う子どもたちが一緒に過ごすということはなんて豊かなことだろうと思います。自信を持って生活しながら、友だちとの関わりが豊かに響き合う2月となりますように。

今月の聖歌

「手のひらを太陽に」

★予定★

日	曜	行事などの予定
1	土	入園準備会（幼児部） 就労家庭保育実施日
2	日	
3	月	幼児部保育相談（希望者）7日まで
4	火	
5	水	連絡係打合せ 幼保小連絡懇談会
6	木	アルミ缶回収
7	金	全体礼拝 ↓
8	土	就労家庭保育実施日 幼稚園委員会⑤
9	日	
10	月	年少参観・懇談・交流会
11	火	建国記念の日
12	水	年長参観・懇談・交流会
13	木	年中参観・懇談・交流会 初雁中1年生社会体験（～14日）
14	金	全体礼拝
15	土	就労家庭保育実施日
16	日	
17	月	
18	火	おはなしの会
19	水	
20	木	
21	金	全体礼拝
22	土	就労家庭保育実施日
23	日	天皇誕生日
24	月	振替休日
25	火	
26	水	3号入園準備会 川越小演劇クラブ発表
27	木	
28	金	全体礼拝



チャプレンのページ

愛されることを知る



「なぜこんなことをしてくれたのです。御覧なさい。
お父さんもわたしも心配して捜していたのです。」

(ルカによる福音書 第2章48節)

ユダヤの国では12歳で成年となります。成年男子は年に一回エルサレムへ礼拝することが定められていました。そこで12歳になったイエス様は初めて、エルサレムへヨセフ・マリヤとともに約160kmの道のりを行ったのです。

帰り道、イエス様はエルサレムに残っていましたが、ヨセフとマリヤはそれとは気づかず、お互い相手と一緒にいると思って、それぞれナザレに向かい出発してしまいました。途中で会って初めてイエス様がいらないのに気づき、あわてて目を皿のようにしてエルサレムへ引き返しました。しかしイエス様は途中の道でもエルサレムでも見当たりません。電気のない時代、夜は現代社会に生きる私たちが想像もつかない暗闇です。探すのは断念しなければなりません。明るくなるのを待ちかねたように2日目も探しましたが見当たらず、3日目も同様に探し始めました。

神殿に行ってみると、子どもを学者たちが囲んで話をしたり質問したりしているのが目に入りました。学者たちは子どもが賢いのに驚いていました。ヨセフとマリヤが子どもを見てみると、なんとイエス様ではありませんか。そこでマリヤがイエス様に言ったのが標記の言葉です。

マリヤは、イエス様が見つかってよかったという安堵と、こんなに心配をかけてなんという子だろうという思いが入り混じる中、このように言ったのでした。

もし自分が3日間も行方不明になり、保護者が必死になって探した後、やっと見つかったとしたらどうなるだろうと聞きますと、子どもたちは口をそろえて「ただではすまない…」と言っていました。ものすごく叱られると言う子もいれば、思いつきり抱きしめられると言う子もいました。ここで大切なのはどのような対応をされるかではなく、自分が保護者から、日頃より十分愛されているのをよく知っているということです。

自分が日頃から深く愛されていることを知っているから、3日も行方不明になったらただではすまないと思うわけですし、逆にそんな心配をかけてはいけないとの気持ちも芽生えてくるのです。

イエス様はこのような家庭で少年時代を過ごされました。私たちと同じ家族の愛情の中で、少年時代を過ごされたのです。そしてこの愛情こそ、時代と形の差はあるにしろ、距離と時間を超えて不変であることが示されているのです。

子どもたちに、十分に愛されていることをしっかりと伝えたいものです。そして人を十分に愛することができる子どもとして成長を続けてほしいと願います。

(チャプレン 鈴木 伸明)

クラスのと窓



つくし組

おいしい給食大好き

散歩やホールで遊ぶのも大好きだけれど、体をたくさん動かした後の給食はとってもおいしくて、みんなが楽しみにしていることの一つでもあります。階段を下りているときに漂う香りに、「カレーだねえ」と笑顔になる子、煮物の香りや焼き魚…。「いいにおい」を感じながら散歩へ出かけます。帰ってくると「ごはんあるかな」とワクワク！着替えが終わると、それぞれ椅子に座り始めます。みんなが揃うと「いただきます!」、エプロンをつけて、手拭きタオルテーブルに置くと、友だちに渡してくれる子、自分のタオルを手を取る子と、子どもたちの成長を感じられます。待ちに待ったごはんが配られると、おかずから食べる子、ごはんにおかずを混ぜて食べたい子、思い思いに食べはじめます。一人がおかわりをする、「〇〇ちゃんのある?」と確認する子もいます。「たくさんあるから、ゆっくりカミカミして、食べてね!」という、うなずいてパクパク食べ進めます。おかわりも含めて完食することも多いみんな。たくさん食べて心も体も大きくなあれ!

もも組

1つの案から始まった!



ある日のもも組の部屋でのお話です。女の子2人と遊んでいると、2階から1階へ下りてくる足音と話し声が聞こえてきました。Aちゃんの「隠れないと!」の声ですぐさまL字の椅子の後ろにAちゃんが隠れ、Bちゃんと保育者は棚の後ろへ。「静かにね!シー」や「ちょっと見てこようよ」と、クスクス笑いながら事務室側の所へ行ってみることにしましたが、階段を下りてくる音が大きくなったことに気づき急いで隠れた場所へ戻りました。

起きてきたCくんは寝起きながらも「いた!ねーかくれんぼ?」、Bちゃんが「かくれんぼ。Cくんも急いで」と言われてすぐに隠れ始めました。その後はDくん、Eくん…。Eくんが起

きてきたので、隠れている子どもたちで「いないよー!どーこだ!」と言って見つけてもらい、最後に「〇〇先生にも見つけてもらおうよ!」の声で、みんなで棚の後ろでギューとくっついて部屋に入ってきた先生に見つけてもらいました。

おやつ前の5分ほどの出来事。みんなを次々誘い遊びに参加し、隠れる場所も限られる中で部屋を使いこなして遊べるもも組のチームワークの良さが見られました♡

ちゅうりっぷ組

遊びや活動も大きく膨らんでいます



3学期から、ピンクちゅうりっぷ組の友だちが1人増えました。「小さい友だちだから、大きな声だとびっくりしちゃうよ」と自分たちより小さな子を迎えるにあたって、子どもたちなりに想いを寄せている様子を頼もしく思いました。

園庭では、大きいクラスの子たちがドッジボールをしたり、しっぽ取りをしたり、白熱したゲームをしています。その姿を見て、一緒に参加する子もいます。でも、すみれ組や、たんぽぽ組の姿は迫力満点。吹っ飛ばされてしまいそうな勢いに、圧倒されてしまいます。

すみれ組が社会見学に出かけたある日、ちゅうりっぷ組だけでボールを使って「中当て」をしました。また、たんぽぽ組のお兄さんが、ドッジボールのやり方をゆっくり丁寧に教えてくれました。いつも憧れの目で見ていることをできるので、嬉しそうなちゅうりっぷ組。自分たちのペースで楽しみました。「すみれさん、お出かけに行くんだって。いいなー、ちゅうりっぷ組でも行きたいよ」の声が上がりました。それならば、ちゅうりっぷ組でもどこかにお出かけに行こうと計画が始まっています。学年を超えて混じり合って遊ぶなかで、小さい子への思い。大きい子への憧れ。周りが見えてきて、遊びや、活動も大きく膨らんできました。子どもたちの、「やってみたい」という気持ちを大事にしながらみんなでいろいろなことを楽しんでいきたいです。

たんぽぽ組

「やりたくない」が「とりあえずやってみる」に

最近たんぽぽ組では、新しいゲームに挑戦しています。3学期になり、「王様 じゃんけん」や「かごめかごめ」、「しっぽとり」、「中当て」、「今年の牡丹」と、いろいろな遊びをしています。その中で感じた成長が、とりあえずやってみるところ！以前までは初めてのことにドキドキして「楽しそう」よりも「ちょっぴり不安…」な気持ちが勝ち、「やりたくない」と言っていた子どもたち。しかし今は初めての遊びでも、ルール説明をよく聞いて、「やる！」と元気に集まります。いざ始めると、ちょっぴり不安だった気持ちもすぐになくなり、にこにこ笑顔で取り組んでいます。

進級を意識し始めた子どもたちは、かっこいいすみれ組になろうと張り切っています。みんなが気持ちよく過ごせるように、支度は荷物を手に持って散らからないようにしよう、あいさつをしようという話をしました。すると次の日からできる子が続出！！ご飯を完食できる子が増えたり、片付けを手伝ってくれる子がいたり、子どもたちの力を感じる日々です。2月にはすみれ組との当番の引き継ぎも始まります。少しずつ進級する準備を始めているところです。

すみれ組

すみれ組だけのご褒美タイムも♪

明治工場でみた、トロトロ流れるチョコレートに魅了された子どもたち。次の日から園庭の泥でトロトロチョコを作りますが、「うまく行かない！」…ということで、実際にチョコを溶かそうとなりました。前もってコープで明治の板チョコと果汁グミを買いに行き、今日はお菓子パーティーです。今までにないほどの集中力で作り方の説明を聞く子どもたちに、お菓子づくりの気合いを感じます。チョコを溶かすのは全員で行い、板チョコが少しずつトロトロチョコに！ところが10人ほど混ぜ終わると、段々固まるチョコレート。焦る担任と「みんなでそのまま食べたらいいじゃん！」と子どもは前向きです。ベテラン先生たちの協力もあり、無事トロ

トロチョコが完成しました。グミをチョコに付けて食べるのは初めてで、「おいしいのかなあ」と言っていた子どもたちも食べてみるとおいしい!!目を輝かせ、ほっぺたが落ちるほどおいしいような顔をしています。お手伝いしてくれた先生や園長先生にもお裾分けをして、子どもたちは冷やして食べる用とチョコフォンデュ用、残りのチョコは棒につけて舐め、容器がピカピカになるまでチョコを堪能たのでした!

わが家のまど



(338) 巣立ち

補助教諭 佐久間洋子



長女がこの春、大学を卒業し、社会人になります。そしてこれを機に年明けから一人暮らしをスタートさせました。心配性の私があれこれ口をはさんでいたら、「もう自分でできるから! (いろいろ言わないで)」ときっぱり。それ以来何も言えなく、ただただ見守るだけの日々の中、「じゃあねー」とあっさり、いつも通り家を出発していってしまいました。

もう私のお役目はおしまいなのか…とさみしくなりました。そういえば、昨年6月の彼女の誕生日、めずらしく自分でバースデーケーキを予約してきました。メッセージプレートには「22 さい ありがとう」の文字。「これは親に感謝してる!!」とびっくりするやううれしいやらで複雑な気持ちになったことを思い出しました。

まだまだ子どもと思っていたのに、あっという間に、私の手元を離れ、自立し、巣立っていった…としみじみしてしまいました。「ちゃんと鍵しめたかな」、「もうご飯は食べてお風呂入ったかな」、「今何してる?」と気になる私は、子離れできてない! ちょっとヤバイお母さん! いやでも少しはジタバタさせておくれー。

なんとも心が落ち着きません。「その気持ちわかるー、そのうち、またよい関係性になるから大丈夫」と子育て先輩のR先生やM先生に励まされながらなんとか日々を過ごす今日この頃です (笑)



今月の聖書のおはなし



☆ 2月7日「最後の晩餐とユダの裏切り」

マタイによる福音書 26 : 1~5、14~35

イエス様を熱狂的に迎えた群衆でしたが、一方ではイエスを捕らえて殺そうとする動きがありました。弟子の一人、イスカリオテのユダは祭司長のところへ行き、銀貨 30 枚と引き換えにイエスを引き渡そうとしていました。イエス様は過越の食事の準備をさせ、弟子の一人が自分を裏切ろうとしていることを告げました。一同が食事をしているときパンを裂き、弟子たちに与えながら「取って食べなさい。これはわたしの体である」と言われました。また、杯を取り、感謝の祈りを捧げて「皆、この杯から飲みなさい。これは罪が赦されるように、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である」と言われました。弟子の一人ペトロが「わたしは決してつまずきません」と言うと、「はっきり言うておく。あなたは今夜、鶏が鳴く前に、3 度わたしのことを知らないと言うだろう」と言われました。

☆ 2月14日「イエスさまの裁判とペテロ」

マタイによる福音書 26 : 47~75

イエス様が弟子たちに話しておられると、ユダに導かれてイエス様を捕らえようとする群衆が近づいてきました。イエス様は抵抗することなく捕らえられました。弟子たちは皆逃げてしまいました。イエス様は大祭司のところへ連れて行かれました。ペトロは遠くからその様子を見ていました。裁判ではイエスに不利になるような証言が出てきましたが、証拠はありません。大祭司は「お前は神の子、メシアなのか」と問いました。イエスは「それはあなたが言ったことです。あなたはやがて私が神の右に座り、天の雲に乗ってくるのを見る」と言いました。大祭司は「神を冒瀆した」と宣告しました。ペトロが中庭から見てみると、一人の女が「あなたもイエスと一緒にいた」と言いました。ペトロはすぐ否定しましたが、別のところでも 2 度同じように言われました。「そんな人は知らない」と打ち消すと、そのとき鶏が鳴きました。ペドロは外に出て激しく泣きました。

☆ 2月21日「十字架のイエスさま」

マタイによる福音書 27 : 11~26、32~61

イエス様は総督のピラトの尋問を受けました。イエスは不利になるような訴えがあっても何も答えませんでした。当時は祭りの度に民衆の希望する囚人を一人釈放することにしていました。このときバラバ・イエスという評判の囚人がいました。ピラトは人々に「どちらのイエスを釈放するか」問いかけてました。人々は「バラバ」と叫び、イエス様は十字架につけられることになりました。ゴルゴダの丘にイエス様の他に 2 人の強盗が十字架につけられました。昼の 12 時にあたりは暗くなり 3 時まで続きました。イエス様が息を引き取ると大きな地震が起こり、神殿の垂れ幕が真っ二つに裂けました。見張りをしていた人たちは「本当にこの人は神の子だ」と言いました。イエスの遺体は亜麻布に包まれ、岩をくりぬいた墓に葬られました。墓の入り口は大きな石でふさがれました。

☆ 2月28日「イエスさまの復活」

マタイによる福音書 27 : 62~28:10

マグダラのマリアともう一人のマリアがイエスさまのお墓を見に行くと、そこに天使が現れ、イエス様が復活されたことを告げました。天使に言われたようにお墓を見ると、入り口にあった大きな石が横に転がり、あるはずのご遺体がなくなっていました。婦人たちは喜び、弟子たちに知らせるために走って行きました。するとその途中でイエス様が現われました。